



収穫作業づくりにま

一年の仕事をやり終えたコンバインを慎重に入念に点検

収穫の季節、農家にとつて田植えと並んで一番忙しい時期です。田植えは各自で行われるところもありますが、刈り取りと運搬は協同作業になります。

10月6日予定よりも1週間早く刈り取り作業が終わりました。ほぼ20日間フル稼働した3台のコンバインを掃除点検して来シーズンに備えます。

稲の出来について重富享祐営農生産組合長は「一番いい時と比べると数パーセント落ちると思う。7月の天候不順で日照時間が十分でなかったために、株の成長が思うようになかったせいではないか」と語りました。

テレビや新聞で農業問題が国際的な問題として捉えられています。新潟の大規

模生産者が50ヘクタールを超える稲作経営をしてもコストをまかなうことが難しいという報道もありました。収穫の秋、実りの秋として単純に喜ぶことができない厳しい現状です。

一方では食料を自分の国で作ることのできないことを問題視する考えも多く聞くことがあります。新潟市は食料自給率を大幅に引き上げることを持ちづくり、地域づくりの基本にしているようです。

八方原朝市が標榜していた「身土不二」という言葉には食べることがすなわち生きること、それは同一のものであるという意味もあります。その地で出来たものを食することができる喜びを感謝しながら、農業の未来を考えてみたいものです。

協同作業の日当支払

八方原の環境を守る会では9月末までの協同作業日当をお支払いしました。わずかな金額ですが、少しでもみなさまのお役に立つことができればと考えています。

金額のことなどでご不明な点や、書類上の手続きなどに、ご希望やご意見のある方は、各班の運営委員か代表まで遠慮なくお申し出下さい。

追跡お米はどこに行くのか

コンバインで刈り取られ、籾となったお米は大きな袋に入れられてどこかに運ばれて行きます。トラックのあとをつけてみました。

やってきたのはJ A山口中央小郡支所のライスセンター。柳井田と東津の境にあります。りんこう土手と呼ばれるところ。到着するとフォークリフトで大きな籾袋が吊り出されます。建物の中に入ると、クレーンで袋がホッパーの上に持ち込まれました。

袋の底は厳重に縛ってありますが、あれだけ重量がかかっているにもかかわらず、開くことができるようになっていま



この日最後の搬入、多い日には10回近く運ぶことも



大きな建物の中に並ぶ乾燥機、係員が一人で監視している

大なカントリーエレベーター「グレンプラザ山口」に役目をバトンタッチするのだそうです。ここでは個別に乾燥作業を行うことはありません。搬入された籾は一旦全て一緒にになり、搬入数量に応じて引き取るという形になるのだそうです。

時代の流れでコストを考えれば仕方ないのかも知れませんが、昔は庭にむしろを敷いて籾を乾燥させていた。むしろの間をそろそろ歩いたあの頃を思い出しました。

青い色の大きな袋は底を何重にも縛ってある。中身を出し終えると外の支柱がうまく倒れてひ平たく畳める

した。何力所か紐を解くと籾がホッパーに流れ出ます。そこからは搬送ダクトで指定した乾燥機に運搬されます。乾燥機は大型のものと少し小型のものがそれぞれ10機ずつありました。収穫された水田ごとに乾燥作業が行われます。大きな建物ですが、関係者のお話ではもう長くは使われないとのこと。ここが使えなくなると、二島にある巨



闘犬の西日本選抜大会

10月14日株式会社亀井組の倉庫は大きな土佐犬と飼い主に溢れました。闘犬の大会が行われたのです。今回は本来防府市内で行う予定だったのが、都合により当地で開催されたものです。集まった土佐犬は150頭、どれも大きく逞しい犬ばかりです。試合は土俵というリングの中で30分間の制限時間が設けられています。



「ちょっと痛かったけど、勝ったぜ」「ご苦労さん」

逃げたり、声を上げたりしたら負けです。どの犬ももの凄い形相で噛み合いますが、なかなか勝負はつきません。主催者は怪我などに備えて獣医を配備し、体制を整えていました。飼い主の愛情を一杯受けた闘犬たちは、必死で戦います。勝っても負けても飼い主は愛犬の顔を水で拭いてやり、労っていました。